

5 きょう土につたわるねがい

れきしさがし をしよう

地いきの古いもの
を見つけてみよう。

<古いものを見つけ方>

1. 次のようなものに
しぼって見つける。
 - ・ 古い道具
 - ・ 道路などにある
古いもの
 - ・ 昔から伝わって
いるもの
2. 見つけたら、写真、
場所、月日を記録し
ておく。

美里さんたちは写真を見ながら、喜多方市の様子について学習してきたことについて話し合いをしました。



「喜多方市にはいろいろなしせつがあ
ったね。」



「スーパー、道路、市役所、駅などた
くさんあったね。そこで、いろいろ
くふうしながら働いていたね。」



「本当に、今までたくさんのものを
人々は作ってきたんだね。」



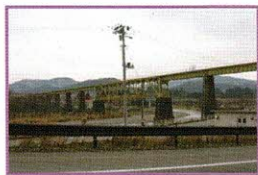
「人は、昔から少しでもよいくらしを
もとめて、自然にはたらきかけたり、
ものを作ったりしてきたんだと思うよ。」



①塩川地区にある
石碑



①熱塩加納地区の
昔の駅



①山都地区の鉄橋



①高郷地区の古い丘



①古い道具



①夏祭り

昔の人々のねがいやくふうがわかるものを、地
いきでさがしてみましよう。

どうく
古い道具と
むかし
昔の暮らし

あおい君たちは、みんなで見つけた古いもの (1) について話し合いました。

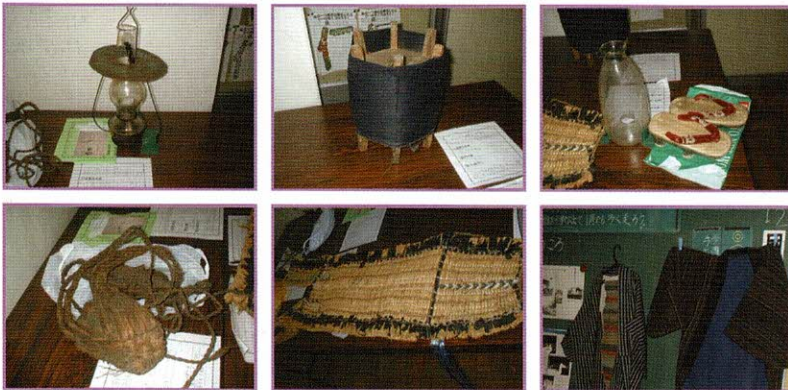


「身の回りをよく見ると、古いものが意外と多いね。」



「家や親せきにも古い道具があったよ。」

そこで、あおい君たちは、家などにあった古い道具を持ち寄り、昔の道具についてくわしく調べて見ることにしました。



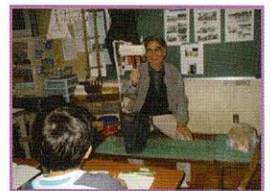
③ みんなが集めた古い道具

電気製品が少なかったので、道具は工夫して使っていました。ランプは油を入れて使いました。

よりくわしく、古い道具について調べるために、あおい君たちは、古い道具の使い方などをよく知っている地いきの方をしょうたいし、話をおききすることにしました。

地いきの方の話を聞いて、あおい君たちは古い道具を使っていたころのくらしの様子が少しずつわかってきました。

古い道具を使っていたころのくらしは、どんな様子だったのでしょうか。



④ 昔の道具について説明する地いきの方

昔の道具にはどんなものがあるか、どんなことに使ったかを民俗館などで調べてみましょう。

あおい君たちは、地いきの方の話を聞いて古い道具を使っていたころの昔の様子についても知りたくなりました。そこでくわしく知るために市内のきょう土民俗館とみんぞくかんに見学に出かけました。きょう土民俗館には昔、使われていた土器や道具などのコーナーがありました。



↑きょう土民俗館の中の様子

喜多方市内には、他に山都民俗資料館、藤巻山里体験道場、高郷きょう土資料館、高郷民俗資料室、日中線記念館などがあります。近くの資料室に行ってみましょう。



「本当にいろいろあるね。」



「実際に使ってみたいな。」



「みのは雨や雪がふったとき使ったんだね。」



「きょう土民俗館の方に使い方も聞けてよくわかったね。」



「道具には昔の人々のちえがまわっているんだね。」



←みのを着て




古い道具と今の道具にはどんなちがいがあるのでしょうか。

あおい君たちは、古い道具について調べていくうちに昔のくらしの様子がくわしくわかってきました。そこで、調べたことを整理するためにカードにかいたり、年表にまとめたりすることにしました。

＜カードなどのまとめ方＞

1. 絵や写真を入れる。
2. 道具の名前を書く。
3. 聞いた方やどこで見たものかを明らかにする。
4. 使い方などをくわしく書く。

 「カードや年表にまとめると、道具のうつりかわりがよくわかるね。」

 「道具が便利になってくらしやすくしやすくなったのは昔の人々の努力のおかげだね。」

 「道具のほかにも昔からのものについて調べてみよう。」

年	道具	気づいたこと
100年以前	◎ たらい、せんたく板 〈たらい〉 ・木で作られている。 〈せんたく板〉 ・表面のぎざぎざになっているところにせんたく物をおしつけてよごれを落とす。	◎ 表面のぎざぎざのところのもようがいろいろある。 ◎ ぎざぎざのところには石けんがたまるなど、昔の人々の工夫が見られる。 ◎ 手でせんたくするのは大変だ。
やく50年前	◎ 電気せんたく機 ・電気になって便利になってきた。	◎ あらった物は機械についているハンドルを回し、水をしばっていた。
やく25年前	◎ 全自動せんたく機 ・だっ水もふくめ、全部のせんたくをスイッチをおすだけで機械がしてくれる。	◎ 昔にくらべると、大変便利になった。

(2) 山ろくに 広がる用水

喜多^き方^か市^し熊倉^{くまくら}町^{まち}雄国^{おくに}地^ち
区^{しちほん}七本^{しちほん}木^ぎの水田^{みづゐ}の様子^{ようす}➡



水はどこから

人々は、水田の水をどこから引いてきたのか話し合いました。



「こんなに広い水田には、たくさんの水がひつようだね。」



「水田に必要な水はどこから来ているのかな。」



「きっと、近くの大塩川からたくさんの水を引いてくるんじゃないかしら。」

みんなは、写真や地図を見ながら、それぞれどこから水が引かれてくるか、よそうを出し合いました。

話し合った後で、先生が次のような話をしてくださいました。



「雄国地区にある雄国沼の水は、以前、そのほとんどが檜原^{ひばら}地区に流れていました。でも、約350年前に雄国に新田を作るために雄国沼から水を引いてきたのです。それは雄国用水路とよばれています。」



「でも、近くに大塩川があるのに、なぜ、雄国沼から水を引いてきたのか

おぐにようすいろ せいしき
雄国用水路は正式に
おぐにほりぬきぜき
は「雄国堀抜堰」とよばれています。

しら。」

と、小林さんが言いました。先生は、



「土地の高さを調べてみるといいね。」

と、話されたので、地図や土地の高さを調べて見ることにしました。



「でも、350年も前に雄国沼から水を引いてくるなんて、大変じゃなかったかしら。」

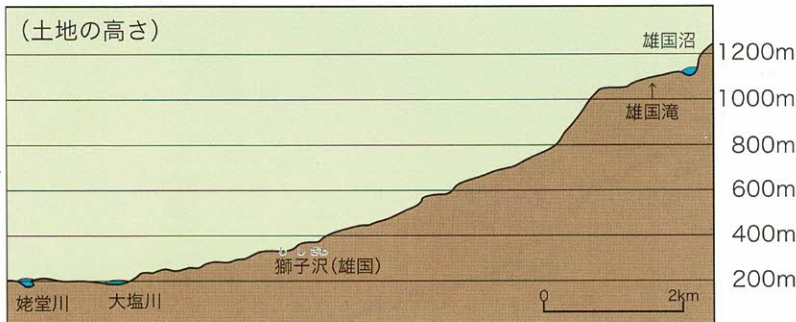
そこで、思ったことなどをカードに書き、クラスみんなの意見をまとめていきました。

話し合いの後、次のような点を中心にして水田に水が引かれた様子をくわしく調べていくことにしました。

<調べること>

- ◎ 土地の様子
- ◎ 工事の様子
- ◎ 用水路の様子
- ◎ 当時の人々の様子やねがい
- ◎ その他

熊倉町雄国地区の土地の様子



(等高線の表していること)

- ① 地図上で土地がおおよそどれくらいの高さかを読み取れます。
- ② 等高線の間かくは、けいしゃの様子を表しています。

疑問カードの例

大塩川が近くにあるのになぜわざわざ雄国沼から水を引いてきたのだろうか。

雄国用水路はだれが、どのようにしてつくったのだろうか。

どうこうせん 等高線の見方

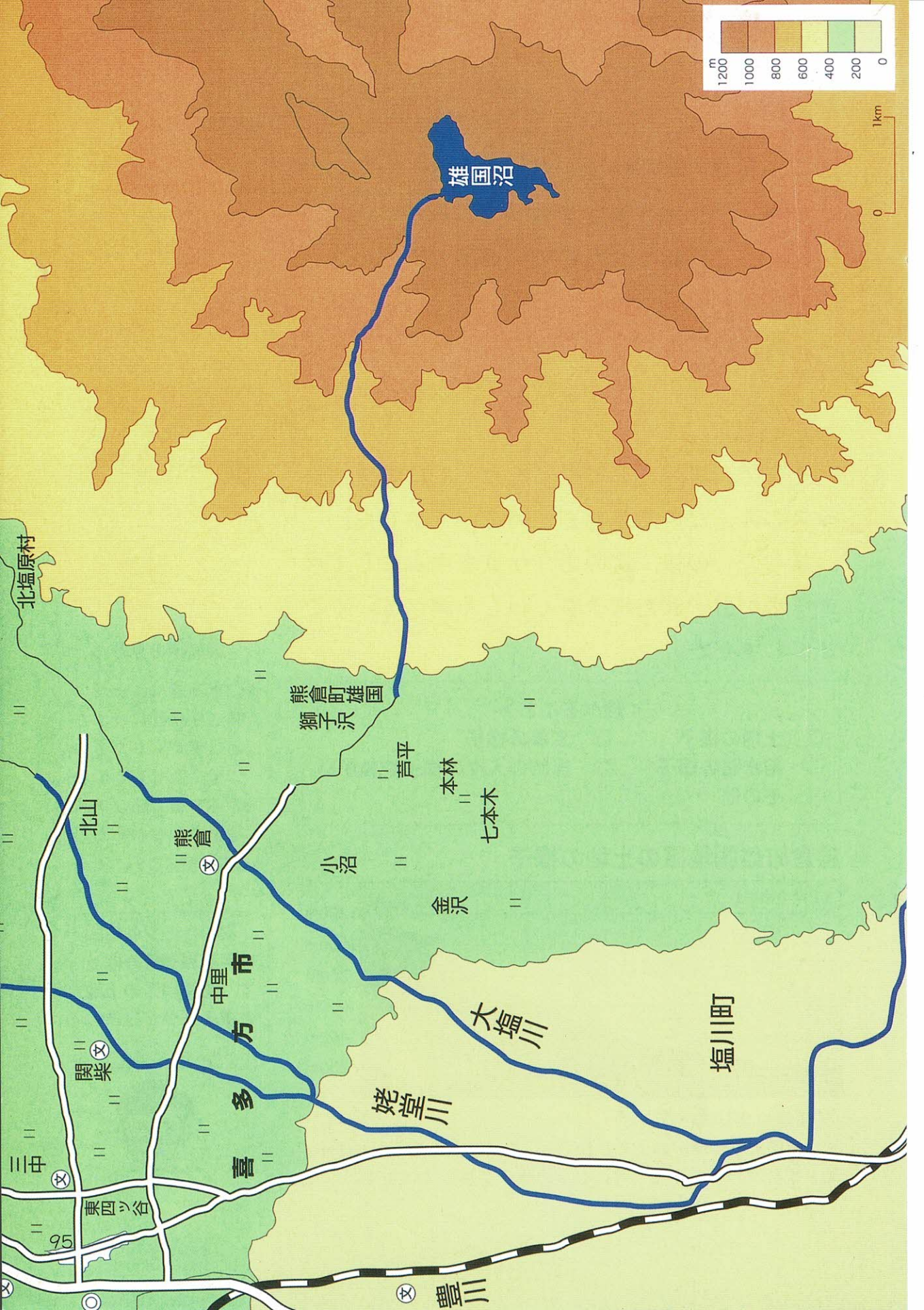
☆ 等高線は、土地の高さを地図に表すために考えられたものです。同じ高さのところを線で結びそれを上からながめたのが等高線です。

次のページの地図の等高線を読み取って、雄国地区の土地の様子をつかみましょう。





1km





雄国沼

大梁沢調整池

檜原湖

今の雄国用水路の様子

水田に水を引くためにどのような工夫がされているのでしょうか。

雄国用水路はどのようになっているのでしょうか。また、どのようにして雄国地区に水を引こうとしたのでしょうか。

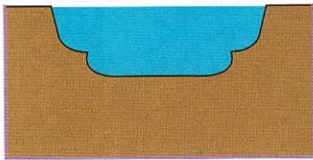
今の雄国用水路の様子をたんけんしてみました。



①古い取入れ口

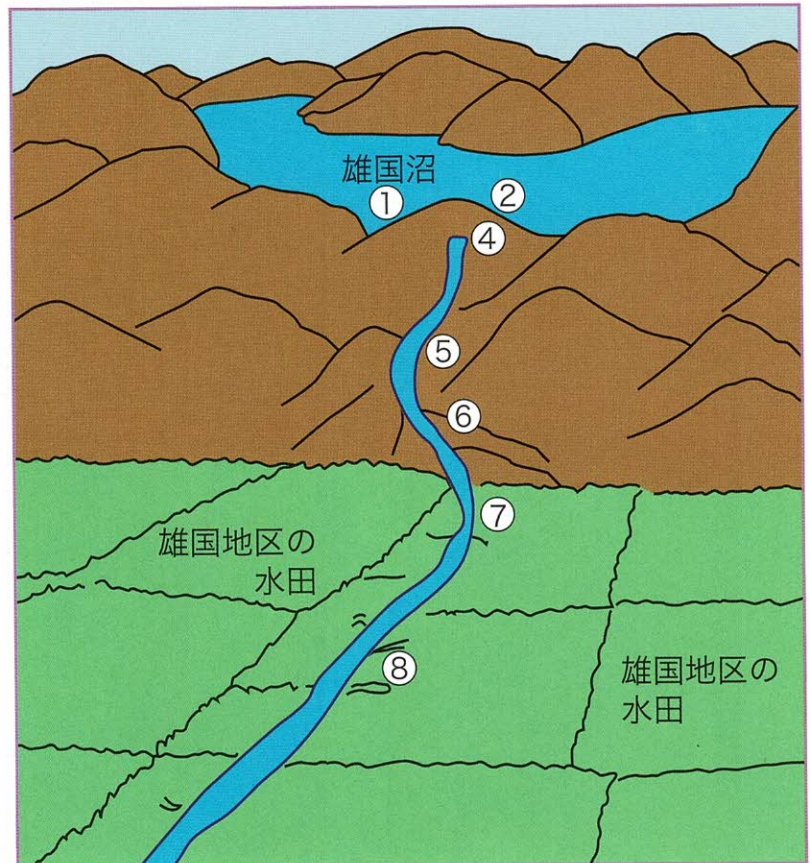


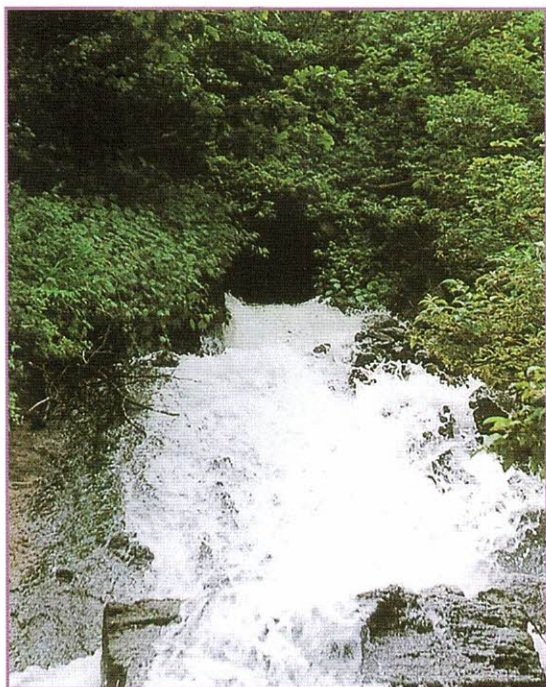
②新しい取入れ口



③水路の掘り方

上の水がなくなっても下が使えるように工夫しています。





④用水路から滝^{たき}となって流れ出る水
(どう門^{もん}出口^{ぐち}付近^{きん})

取入口からの水をどう門に流し込み、水が流れやすいように滝にして通しています。

(雄国滝ともよばれています。)



⑤雄国沼から流れ出た水は、川となって雄国地区の方に流れています。➡



⑥自然^{しぜん}の沢^{さわ}の流れを利用し、水を雄国地区に流し込みます。

雄国地区に入った雄国沼の水は、どのようにして水田に引かれているのでしょうか。

クラスみんなは、写真の見ながら、水田に水が入っていく様子について調べました。



- ⑦雄国地区に流れ込んだ水は、高さをたもちながら、水田に流れこみます。水田をだんにしたり、コンクリートの水路でだんを作ったりして、土地の高さに差をつけ、水が流れやすくなるように工夫しています。



- ⑧ぶんすい水路から水田に水を引いているところです。

雄国沼の水は地区の水田で利用されています。



人々のねがいと努力読点

雄国用水路の様子を調べてみると、クラスの人みんなにもそのすばらしさがわかってきました。

このすばらしい雄国用水路を作った当時の人々がどのようなねがいをもち、だれが作ったのか調べていくことにしました。そこで、先生は下のような年表を見せてくださいました。

年	できごと
1530年ころ	<ul style="list-style-type: none"> このころ、会津地方では何か月も雨がふらず、日でりのため、作物がとれない年がたびたびある。
1567年	<ul style="list-style-type: none"> 会津地方では、作物がほとんどとれず、多くの人がうえ死にする。 (喜多方でも多くの人々がうえ死にする)
1657年	<ul style="list-style-type: none"> 大塩平左衛門（おおしお へいざえもん）が雄国沼から山をくりぬき、水を引く工事を始める。
1660年	<ul style="list-style-type: none"> 雄国用水路が完成し、雄国地区に新田がひらかれる。
1896年 (明治29年)	<ul style="list-style-type: none"> 水害のため、雄国沼取り入口の土手がこわれ、雄国地区が大きな被害を受ける。
1933年 (昭和8年)	<ul style="list-style-type: none"> 現在も使われている新しい雄国用水路を作る。
1944年 (昭和19年)	<ul style="list-style-type: none"> 水害のため土手がこわれ、雄国地区が大きな被害を受けたので、土手を強くする工事をを行う。 (百間土手を作る)
1967年 (昭和42年)	<ul style="list-style-type: none"> 百間土手を中心に改修工事をを行う。

人物年表の読み取り方

- 人物の動きに着目する。
- できごとに着目する。
- 人物とできごとに着目する。

当時の人々は、どのようなねがいをもっていたのだろうか。

人々のねがい

むかし、喜多方地区では水が不足しがちでした。

日でりが続くと、特に農家では飲み水だけでなく、米や野菜を作るための水も足りなくなり、食べ物もとれず大変こまっていました。

大塩川や姥堂川など、大きな川も近くにありましたが、土地の高さの関係で川の水をうまく利用して田や畑で使うことができませんでした。

当時の雄国地区は、ほとんどが森林でした。それは、建物などを作ったりするには大切な資源でしたが、土地はやせており、米や野菜を作るには、あまり適した土地とは言えませんでした。そのため、家もあまりありませんでした。

「水を引いて、土地を豊かにし、水田を作って作物をたくさん収かくしたい。」

と、人々は長い間強くねがっていました。

<日でりが続いて作物がとれない>

こまったなあ

イネがかれてしまった



農家の人の気持ちをふき出しに書き表してみよう。

おおしおへいざ えもん
大塩平左衛門の努力

今から350年ほど前に、現在の^{げんざい}北塩原村^{きたしおばら}に代官（だいかん）という役についていた大塩平左衛門という人がいました。



大塩平左衛門

大塩平左衛門は、当時の人が日ですりて作物が満足^{まんぞく}にとれず、こまっている様子を見て、雄国沼から水を雄国地区に引いてくることを考え、工事をすることを^{あいづはん}会津藩のとの様にねがい出ました。

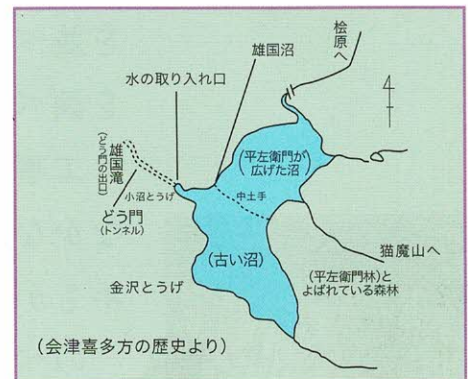


1657年、会津藩のとの様から工事のきよかをえた平左衛門はさっそく、工事をしようしました。新しい田を作ろうと、今の北塩原村大塩

などから人々が雄国地区に移り住み、平左衛門といっしょに工事に取り組みました。しかし、工事にはたくさんのお金がかかるのに、藩からのえん助はなく、平左衛門は自分のお金を使って工事を行わなければなりませんでした。

① 工事で広がった雄国沼

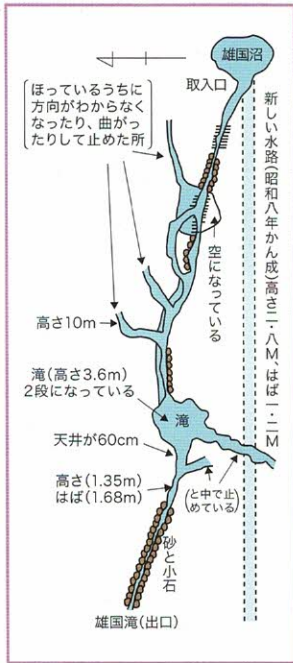
平左衛門は次のようにして工事を行おうしました。



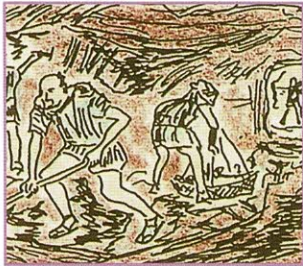
② 雄国沼を真上から見た図

- ① 雄国沼を大きくして、たくさんのお水をたくわえる。(3倍のおおきさにする)
- ② 山をくりぬいてどう門（トンネル）を作り、雄国沼から水を引く。
- ③ 引いてきた水を利用して、新しい水田をひらく。

工事の様子



① どう門の中の様子



② どう門の工事の様子

しかし工事は大変^{こん}困^んんなものでした。

最も難しかったのは、どう門(約350m)をほる工事でした。工事の場所が遠くはなれ、土地の高さも1000m以上あり、不便^{ふべん}な上に寒さもきびしかったことが大きな原因^{げんいん}でした。

左の図は、どう門の中の様子を表したものです。と中でどう門が切れているところがあります。かたい岩のため、ほるのが難しかったり、両側からほり進んだ時に、穴が合わずに、ほるのをと中で止めてしまったのです。

また、ほってきた土地の高さが合わず滝のようになってしまったところもあります。

工事に使った道具もくわやもっこ、のみなどでした。

また、半分に割った竹に水を入れたり、提灯^{ちようちん}を並^{なら}べたりして土地のかたむきや曲がりぐあいを調べたりしました。

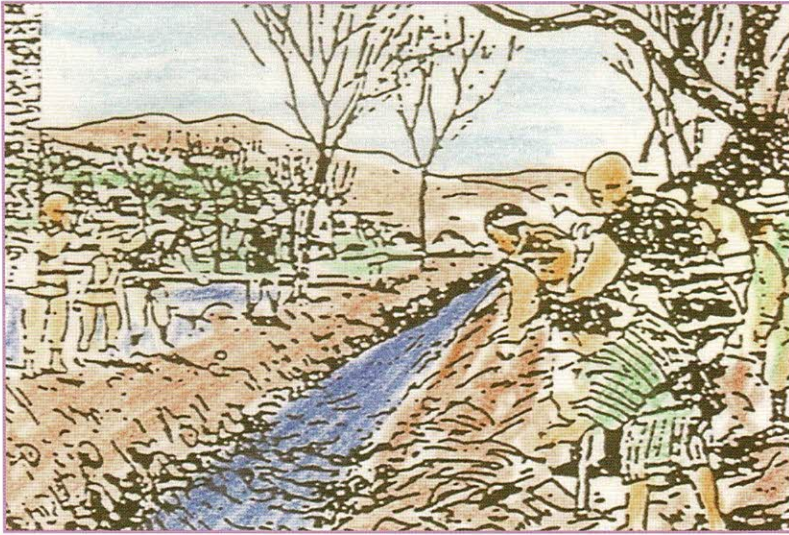
工事は手作業で進められました。そのため、なかなか工事が進まず、半年の工事の予定が3年もかかってしまいました。

のべ7000人ものが働いたと言われていいます。きびしい工事のため、と中で病気になったりする者も出てきました。

平左衛門たちは、工事のお金もなくなり、藩^かからたくさんのお金を借りなければなりません

でしたが、最後まで工事を続けました。そして、やっとの思いで1663年に雄国用水路を完成することができました。

当時の人々の気持ちを考えてみましょう。



④用水路を通して流れてくる水を見守る人々

クラスみんなは、当時工事に使っていた道具をくわしく調べてみることにしました。

「きょう土民俗館」に行って当時使われている道具を調べたり、農家の親せきや家にある物を持ちよって、実さ^もいに使ってみることにしました。



①工に使った道具(土つき)



⑤もっこをか
ついでみる

どんな感想を持ったか発表し合ってみましょう。

雄国用水路と人々のくらしの変化

人々のくらしは、雄国用水路ができてどのように変わったのでしょうか。



「雄国用水路ができて人々のくらしはどう変わったのだろうか。」



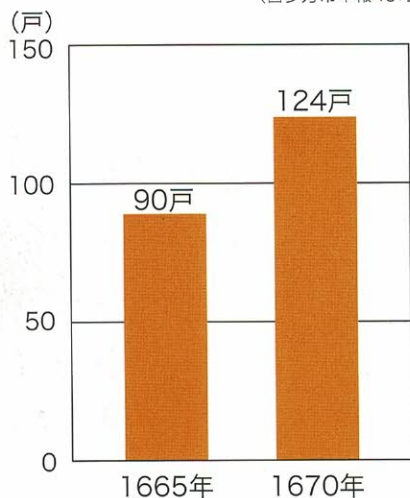
「雄国用水路のおかげで、米や野菜がたくさんとれるようになり、くらし

も豊かになったと思うよ。」

などの意見が出されました。そこで先生は下のよう^{しりょう}な資料を出し、雄国地区に新しい村ができたことも教えていただきました。

雄国用水路ができた後の雄国地区の家の数

(喜多方市年報4より作成)



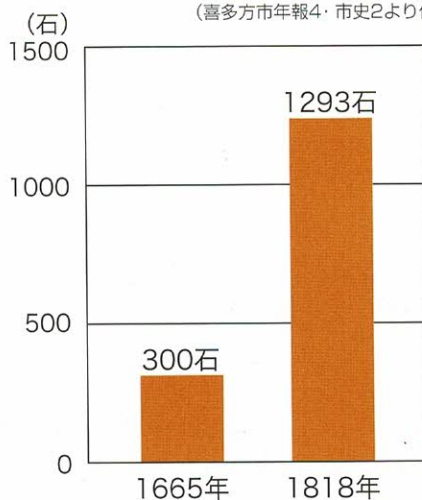
※ただし、この当時の雄国地区は(七本林・本林・芦平・獅子子沢)の4地区の範囲を表す。

このグラフから何が分かるかな。



雄国用水路ができた後の雄国地区の米のしゅうかく量

(喜多方市年報4・市史2より作成)



※1石は150kgを表す。

きょう土の^{ざいさん}財産「雄国用水路」

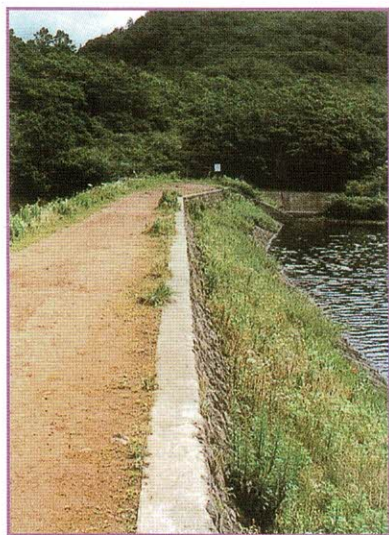
雄国用水路は350年もの間、雄国地区の水田をうるおしてきました。今から100年ほど前（明治29年）と60年ほど前（昭和19年）の2度、雄国沼の^{ていぼう}堤防がこわれ、大水があふれ出し、村に大きなひがいを与えました。しかし、土手を強くしたりして（百間土手—約180mあります）、地区の人は自分たちの財産である「雄国用水路」を必死で守ってきました。

また、昭和42年にも土手を改修するなど、今でも雄国用水路は地区の人たちにとってなくてはならないものになっています。

雄国用水路は、現在どのように使われているのでしょうか。



昭和42年の改修工事



改修された百間土手

雄国土地改良区の方のお話



約2か月間、地区の人が交代で水の量の管理をしています。今は172haの田に水を引いています。大変な思いをして工事をしておかしの人には感しゃしています。



用水路などの様子を実さいにみたり、地区の方に聞いたりして調べてみましょう。

自分の地区にはどのような用水路や水田があるか調べてみましょう

- * ^{せんざきはら}千咲原の干たく（山都地区）
- * ^{おおはやし}大林堰（山都地区）
- * ^{はつ}八ヶ村堰（熱塩加納地区）
- * ^{こまがた}駒形堰（塩川地区）
- * ^{きつね}狐堰（塩川地区）

(3) きょう土 のねがいを実 現するために



堺さんは、^{うりゅういわこ}瓜生岩子について調べ、
まとめてみました。

【日本の^{しやかいじぎょう}社会事業の母 瓜生岩子】

年	できごと
1829年	・ 瓜生岩子生まれる。
9才	・ 家が火事でやけ、その後父がなくなり、母の実家（喜多方市熱塩加納町）にうつる。
14才	・ 会津若松のおばの家にうつり、勉強する。
17才	・ けっこんし、会津若松に呉服屋をはじめ。
35才	・ 夫をなくし、続いて母もなくす。 ・ 示現寺のおしょうの教えを聞き、世のため、人のためにつくす決心をする。
40才	・ 会津の戦争（戊辰戦争）で敵、味方の別なくけが人を助ける。
41才	・ 喜多方に小田付幼学校をつくる。
44才	・ 東京で1年間勉強した後、ふるさともどって、貧しい人々を救うために活動する。
58才	・ 福島にうつり、まずしい人々をすくうために活動する。
60才	・ 磐梯山噴火のひ害者を助けるために、先頭に立って活動する。
63才	・ 第1回の国会に「貧しい人々をすくうためにしせつをつくってほしい」と手紙でうったえる。
その後	・ 東京で身よりのない子どものせわをする。 ・ 会津若松・喜多方・会津坂下に貧しい子、身よりのない子どもを育てる育児会をつくる。 ・ 会津若松に「 ^{しりつさいせい} 私立済生病院」を作り、貧しい人々を無料でちりょうする。
68才	・ 国から ^{らんじゅほうしょう} 藍綬褒章というくんしょうをもらう。
1897年	・ 4月19日、瓜生岩子がなくなる。
69才	

～たん生～

瓜生岩子は、江戸時代も終わりに近い1829年、小田付村（今の喜多方市北町）のあぶら屋の長女として、母の実家（熱塩加納町）で生まれました。岩子は、何不自由な生活を送っていましたが、9才の時、父がなくなり、さらに家も火事でやけてしまったため、母と一しょに母の実家で生活することになりました。14才の時、岩子は、会津若松のおばさんの家で勉強することになりました。岩子はそこで、学問、さいほうなどを教えてもらいました。

～不幸のどん底からの決意～

17才の時、岩子はけっこんし、会津若松で呉服屋をはじめました。店のはんじょうし、4人の子どもも生まれ、幸せでした。

しかし、幸せは長く続きませんでした。夫が病気になり、店を続けることが困なんになりました。

それでも、岩子は何とかして店を続けようとしましたが、そのかいなく、夫はついになくなってしまいました。さらに不幸なことに次の年に母までなくなってしまい、岩子は氣力をなくしてしまいました。岩子35才の時でした。そんな岩子を救ってくれたのは、母の実家の近くにある示現寺のおしょうでした。おしょうから、「お前の全てをもっと不幸な人にささげるのだ。お前は他人の喜びを自分の喜びにできる人間だ。」と教えられました。その教えを聞き、岩子は「世のため、人のためにつくそう。」と決心しました。

～明治のナイチンゲール～

1868年、会津で戦争（戊辰戦争）がありました。会津若松に官軍が攻めてきて、いたるところで人々が傷つきたおれていました。

岩子は、敵、味方の別なくまた、身分の差なく傷ついたり、避難したりする人々を助けるた



①示現寺



②示現寺にある
瓜生岩子像

めに働きました。1か月で戦争は終わりましたが、町の生活はひどいもので、家をやけ出された子どもたちが町にあふれていました。

この子どもたちを救うためには、学問が大切だと考え、小田付に小田付^{よう}幼学校をつくりました。役所が全会津地方に小学校をつくる前のことでした。

～^{まず}貧しい人々のために～

岩子は、43才の時東京に行き、1年間貧しい人々を助けるためのしせつで勉強しました。その後、ふるさとに帰ってから、岩子は、岩月村（今の岩月町）の長福寺に身よりのない子どもやお年よりを世話したり、勉強を教えたりする^{よういくじょ}養育所を作りました。

岩子が60才の時、^{ばんだい}磐梯山が^{だいばくはつ}大爆発しました。近くの村は大きな被害を受けました。多くの方がなくなったり、けがをしたりしました。なかには家が水ぼつしてしまった人もいました。

被害の様子を聞くと岩子はすぐに、着物や食べ物などのきふを人々にお願ひし、これを集めて、被害にあった人に送りました。自分の着物を売って米を買い、ごはんをたいて、こまっている人々にあげるほどでした。

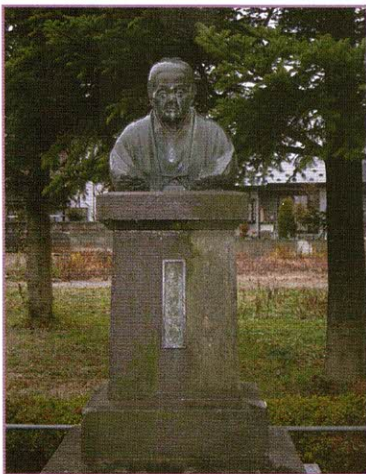
～ふるさとから全国へ～

63才の時、岩子は、多くの貧しい人々を助けるためには国の協力きょうりょくが必要と考え、国の議会ぎかいに協力をおねがいしたり、東京で身よりのない子の世話せわをしたりしました。

その後、会津若松・喜多方・坂下に貧しい子、身よりのない子を育てる育児会いくじかいをつくったり、会津若松に「私立済生病院」しりつさいせいをつくり、貧しい人々を無料むりょうでちりょうできるようにしました。この病院で、後に世界的医学者せかいてきいがくしゃになる野口英世のぐちひでよも医学の勉強をしたことがあります。

68才の時、岩子は活動がみとめられ国から表しょうされました。

その後も、岩子は1897年になくなるまで、恵めぐまれない人々のために一生けんめい働きました。



①生家があった北町にたっている瓜生岩子像



①生家があった場所にたっている碑

イギリスのナイチンゲールも戦争きさずで傷ついた人を差別なく助けたことでゆう名です。そのため、瓜生岩子は明治のナイチンゲールとよばれることもあります。

岩子の活動をたたえ、東京都の浅草寺、福島市、喜多方市北町、喜多方市熱塩加納町にどう像がたてられています。



瓜生岩子の生き方を知るために伝記でんきを読みましょう。
さん考図書：「ねがいは水あめの詩に」



はすぬまもんぞう
蓮沼門三



岩田君は、^{はすぬまもんぞう}蓮沼門三について調べ、
まとめてみました。

【^{あい}愛と^{あせ}汗の人 蓮沼門三】

～たん生～

蓮沼門三は、^{あいかわ}1882年2月22日相川村
(今の山都町)に生まれました。

母親は、用事があって吹雪の中、出かけてい
ましたが、今の山都町蟹沢にとう着すると、急
におなかがいたくなって動けなくなってしま
いました。このような大変な中で門三はたん生し
ました。その後不幸なことに、門三の父親は関
西に仕事に行ったまま、ゆくえ不明になってし
まいました。母親は、門三を育てるため必死で
働かなければなりませんでした。

～^{きょうし}教師の道へ～

門三は、3才の時、母親と一しょに岩月村
(今の岩月町)の^{はすぬま}蓮沼家にうつってきました。

その後、小学校(今の岩月小学校)に入学し
た門三は、学校で一生けんめい勉強しました。

門三は、けんめいに働いている母親を助ける
ためにも、しだいに教師になりたいと強く思う
ようになりました。

15才の時、喜多方高等小学校を卒業した門

三は、一生けんめい勉強をし、ねん願^{がんだいようきょう}の代用教員^{いん}になり、今の入田付小学校につとめました。その後、門三は、若宮村（今の会津坂下町）などでも教師を続けました。

門三は、よりよい教師^{きょうし}になるためにもっと勉強をしたいと思うようになりましたが、母親のことを考えるとなかなか言い出せませんでした。

しかし、勉強したいという気持ちをおさえ切れない門三は思い切って師範学校^{しはんがっこう}（教師になるための大学）に行く決心をしました。

～東京へ～

門三は、21才の時、東京^{とうきょう}府師範学校^{ふしはんがっこう}（青山師範学校^{あおやましはんがっこう}・今の東京学芸大学^{とうきょうがくげいだいがく}）に入学しました。そこで、門三は、寄宿舍^{きしゆくしゃ}（学生が生活するところ）に入ることになりました。しかし、当時の寄宿舍は、大変よごれていてました。

門三は、きれいな環境^{かんきょう}からりっぱな青年が育つのだと考

年	できごと
1882年	・ 蓮沼門三生まれる。
3才	・ 母と岩月村にうつる。
7才	・ 岩月尋常小学校（岩月小学校）に入学する。
11才	・ 喜多方高等小学校に入学する。
15才	・ 喜多方高等小学校を卒業し、代用教員になる。
21才	・ 東京府師範学校に入学し、寄宿舍 ^{はい} に入る。
22才	・ 校内の美化活動をはじめる。
24才	・ 友だちの協力をえて、「修養団」をつくる。
25才	・ 東京府師範学校を卒業し、東京の教員になる。
28才	・ 学校の教員をやめ、修養団の活動にせんねんする。
33才	・ 青年をたいしょうに講習会を行う。
41才	・ 関東大しんさいで多くの人を助ける活動を行う。
その後	・ 奉仕活動や講習会の実しなどさまざまな社会教育活動を行う。
90才	・ 喜多方市名誉市民に選ばれる。
92才	・ 国から表しょうされる。
95才	・ 喜多方市に「愛汗の碑」がたてられる。
1980年	
98才	・ 2月11日、蓮沼門三がなくなる。

え、自分一人でも学校内をきれいにしようと思
い立ちました。門三は、人より1時間ほど早く
起きて、ろう下のぞうきんがけをはじめまし
た。最初、門三に賛成^{さんせい}してくれる人はあまりい
ませんでした。その熱心さにえいきょうされ
て、しだいにさん同者が増え、ついには門三の
活動は校内全体まで広がっていきました。

ほうしかつどう ～奉仕活動へ～

門三は、校内美化運動^{びか}をはじめ、師範学校の
学生の生活をよくしようといろいろな活動を行
いました。24才の時それらの活動をまとめ、
友だちと修養団^{しゅうようだん}という組織^{そしき}を作りました。主に、
人々のために奉仕活動することを中心に置きま
した。そのために一生けんめい汗を流そうと
人々に呼びかけました。

1923年9月1日、関東地方に大じしんが
起き、多くの建物がたおれ、10万人以上の
人々がなくなりました。修養団の建物もこわれ
ましたが、門三はすぐに修養団のなかまと協力
して、他の人々を救^{すく}うための活動を行いました。

また、門三は、若い人を集め、自然の中で健
康^{こう}な体を作り、互いに協力し合うことや相手を
思いやる心を育てようと講習会^{こうしゅうかい}なども開きました。

このような門三の活動は、全国に広がり、多

くの人々が門三の活動に参加しました。門三が行った講習会は今のキャンプの考え方のもとになっています。また、門三は、講習会の中で健康な身体を育てるために体操することを重視しました。これは、今の朝の体操のもとになっています。

このような活動がみとめられ、門三は、90才の時、第1号の喜多方市名誉市民ごう めいよしみんに選ばれました。また、92才の時には国からも表しょうされました。

その後、門三は、1980年98才でなくなるまで、一生けんめい活動を続けました。

今でも、門三のつくった修養団は国内だけでなく、世界中で奉仕活動、キャンプなどを中心に行っている。いろいろな活動をしており、大きなせいかをあげています。

門三が行った奉仕活動、講習会は今わたしたちが行っている活動のもとになっています。ボランティア活動等にも大きなえいきょうをあたえました。

門三は、他の人のために一生けんめい汗をかき、努力することをよびかけました。喜多方プラザには門三のぎょう績をたたえて愛汗の碑(あいかんのひ)がたっています。



①喜多方プラザにたっている
愛汗の碑



②山都町にたっている
蓮沼門三像

蓮沼門三をよく知るために伝記を読みましよう。

さん考図書：「愛と汗の人 蓮沼門三」



佐藤さんは、藤樹学を研究した人々
を調べてみました。

とうじゅ 藤樹学を広めた人々

今から約330年前の江戸時代^{えどじだい}、会津地方
(特に喜多方地区)では、藤樹学という学問を
研究することがさかんに行われるようになりました。
藤樹学は、今の滋賀県出身^{しがけんしゅっしん}の中江藤樹^{なかえとうじゅ}
が広めた学問ですが、わたしたちの生活と強く
結びついた考え方が中心になっています。

当時、喜多方地区で藤樹学の研究の中心にな
っていたのは、遠藤謙安^{えんとうけんあん}、五十嵐養庵^{いがらしょうあん}、東条長
五郎といった人たちです。

藤樹学の研究は喜多方地区でその後も続けら
れ、塩川地区やその他の地区にも藤樹学の考え
方が広がっていきました。その考え方は地いき
の人々や会津藩の学校である日新館^{にっしんかん}の教育^{きょういく}にも
えいきょうをあたえました。



①五十嵐養庵



②遠藤謙安

きょう土のねがいを実現するために 努力した人々

はら へいぞう
原 平蔵 (1859年～1926年)

じゆうみんけん
自由民権運動 (人々の自由をもとめる運動)
に参加した後、明治時代、喜多方町長として岩
えつてつどう ばんえつさいせん
越鉄道 (今の磐越西線) をひいたり、教育など
せいび
の整備を行ったりしました。

こあらい こしろう
小荒井 小四郎 (1846年～1911年)

明治時代、会津地方ではじめての製糸工場を
つくりました。その後の工業の発展に大きなこ
うけんをしました。



① 原 平蔵



② 小荒井小四郎



⬆ 岩崎 憲



⬆ 唐橋左源次

いわさき けん
岩崎 憲 (1889年～1978年)

今の岩月町下岩崎地区に生まれ、^{どくがく}独学で医学博士になり、多くのすぐれた研究をしました。一時、^{こうほ}ノーベル賞候補にもなりました。

まえだ こうさく
前田 耕作 (1846年～1922年)

耶麻地区の議員になり、塩川町堂島地区で^{よう}養蚕業や生糸業の発展に力を入れました。また、^{いなさく}稲作などにも一生けんめい取り組みました。

からし さげんじ
唐橋 左源次 (1860年～1905年)

山都地区にとって山林が大切と考え、国の持ち物であった山林を地区の物にしようと努力しました。また、鉄道をひくことにも努力しました。

やまぐち いち たろう
山口 市太郎 (1867年~1897年)

高郷地区に生まれ、会津地方で大切な産業^{さんぎょう}であった「うるし」のさいばいについて研究し、
うるしぎょうぜんしよ
「漆業全書」という本を出し、大きなこうけん
をしました。



① 漆業全書

さとう げんこう
佐藤 玄孝 (1823年~1900年)

山都地区の医者、教育者で、自宅に塾^{じゅく}を開き
多くのすぐれた人々を育てました。

すずき さかえ
鈴木 栄 (1863年~1935年)

高郷地区の教育者、組合村長で地区の発展に
こうけんしました。

きょう土のねがい
を実現するためにい
ろいろな人が努力し
ているんだね。

その他にもどんな
人がいるか地区の方
に聞いたりして調べ
てみましょう。



(4) のこしたいもの つたえたいもの

ふるさとれきしたんけん

どんなものがきょう土のれきしを伝えているのでしょうか。

健君たちは、これまでの学習で、地域の古いものをたくさん見つけました。



「喜多方には昔の様子を^{つた}伝えるものがたくさんあるね。」



「石碑や近くのお寺もずっと昔からあるらしいね。」

健君たちは、どんなものがきょう土のれきしを伝えているのか、それらには、人々のどのようなねがいがこめられているのかなどを調べることにし、発表のしかたについても話し合いました。



「ぼくたちは、デジタルカメラでとったものをみんなに見せながら発表しよう。」



「わたしたちは、喜多方市にのこる祭りなどを調べ、学習新聞にまとめて発表しましょう。」



「喜多方市の古いものをまとめて、れきしマップを作りたいな。」

健君たちは、【れきし発見メモ】をもってそれぞれのグループで古いものを調べることにしました。

れきし発見メモ

- ・ 見つけたもの
- ・ 見つけた場所
- ・ 教えたくれた方
- ・ ぎもんに思ったこと

喜多方市に残る古いものにはどんな物があり、それらには、人々のどんなねがいがこめられているのでしょうか。



きょう土資料館の方のお話

喜多方市には大昔の遺跡から出てきたものやお寺や神社など多くの文化財や自然があります。また、昔の人々の思いを受け継いでいる伝統行事があります。それぞれの地区の文化財や伝統行事を調べてるとよいと思います。

喜多方市に残る古いもの (文化財など) ぶんかざい



くまの じんじやながとこ
①熊野神社長床 (慶徳地区)



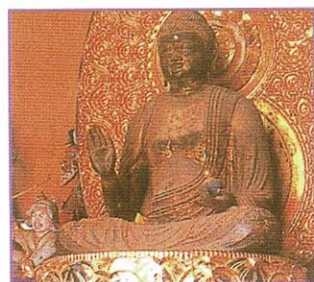
しょうふくじかんのんどう
①勝福寺観音堂 (関柴地区)



もくぞう あみだ によらい
①木造阿弥陀如来及び
両脇侍座像
(願成寺・上三宮地区)

これらは、喜多方市にある国指定の文化財です。その他、国が指定している文化財に椿彫木彩漆笈つばきほりもくさい (熱塩加納地区)、熊野神社銅はちどう (慶徳地区)、古屋敷遺跡ふるやしきいせき (塩川地区) があります。

健君たちは、慶徳地区にある熊野神社に行ってきました。地区の方は「地震でこわれてから、約400年近くも大切に守っています。」と話をしてくれました。



もくぞうやくし によらい ざぞう
①木造薬師如来座像
(中善寺・関柴地区)



①ねんが蔵 (若喜)



①ざしき蔵 (甲斐)



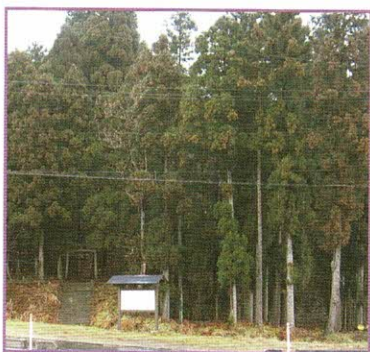
その他、高郷地区に天ねん記ねん物としてアイヅタカサトカイギユウ化石が高郷きょう土資料館にあります。

その他、各地に残る古いもの（文化財など）

〈喜多方地区〉

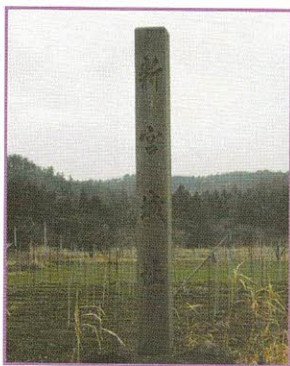


ぬかづかこ
①糠塚古ふん（岩月地区）



あおやまじょう
①青山城あと（上三宮地区）

てしろぎけ としまけ
①旧手代木家・外島家



しんぐうじょう せきひ
①新宮城あとと石碑
（慶徳地区）



たいようじ
①太用寺（岩月地区）



やまさきよこあなこ
①山崎横穴古ふん（慶徳地区）

その他、三津谷れんが蔵（岩月地区）などもあります。

〈塩川地区〉



べつぶ いちりづか
①別府の一里塚



だんじょう はら
①弾正が原



とこよはらだ
①常世原田いせき

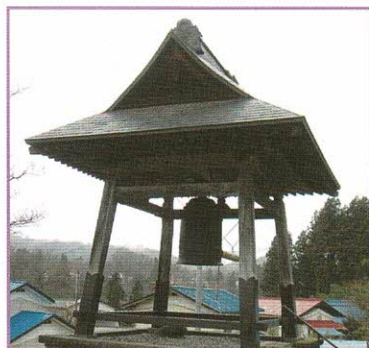
〈山都地区〉 その他、一ノ戸川橋梁（鉄橋）^{きょうりょう} などもあります。



↑ 旧一戸村制札場
きゅういちのと せいざつ

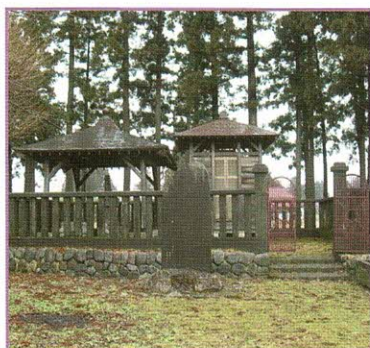


↑ 飯豊山神社
いいで さんじんじや



↑ 泉福寺
せんふく

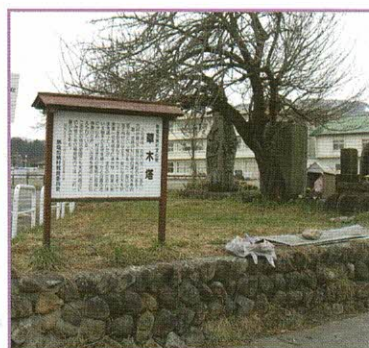
〈熱塩加納地区〉 その他、日中線遊歩道（熱塩駅）^{にちちゅうせんゆうほどう} などもあります。



↑ 伝 佐原義連のはか
さわらよしつら

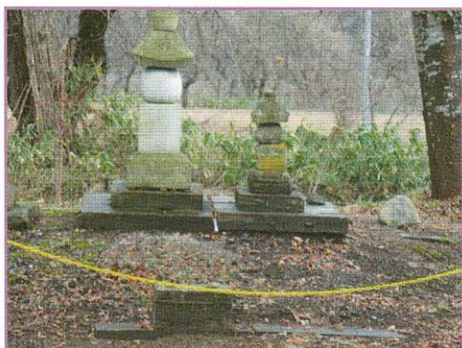


↑ 示現寺
しげんじ



↑ 草木とう
そうもく

〈高郷地区〉



↑ 伝 小野小町塚
おののこまちづか



↑ 伝 小野小町けしょう清水
おののこまち しみず

喜多方市に昔から伝わってきた主な行事



ひがん
① 関柴彼岸じ子 (関柴地区)



けいとくいなりじんじゃ たうえしんじ
① 慶徳稲荷神社田植神事
(慶徳地区)



① さいの神



なかめ
① 中ノ目ねんぶつおどり (塩川地区)
おぬま
(小沼ねんぶつおどり・熊倉地区)



① 初市



みしまじんじゃだいだい
① 三島神社太々かぐら
(上三宮地区)



「本当に、各地区ごとにたくさんの文化財や昔から伝わる行事があるね。」



「昔から伝わってきたものを地区で大事にしているんだね。」



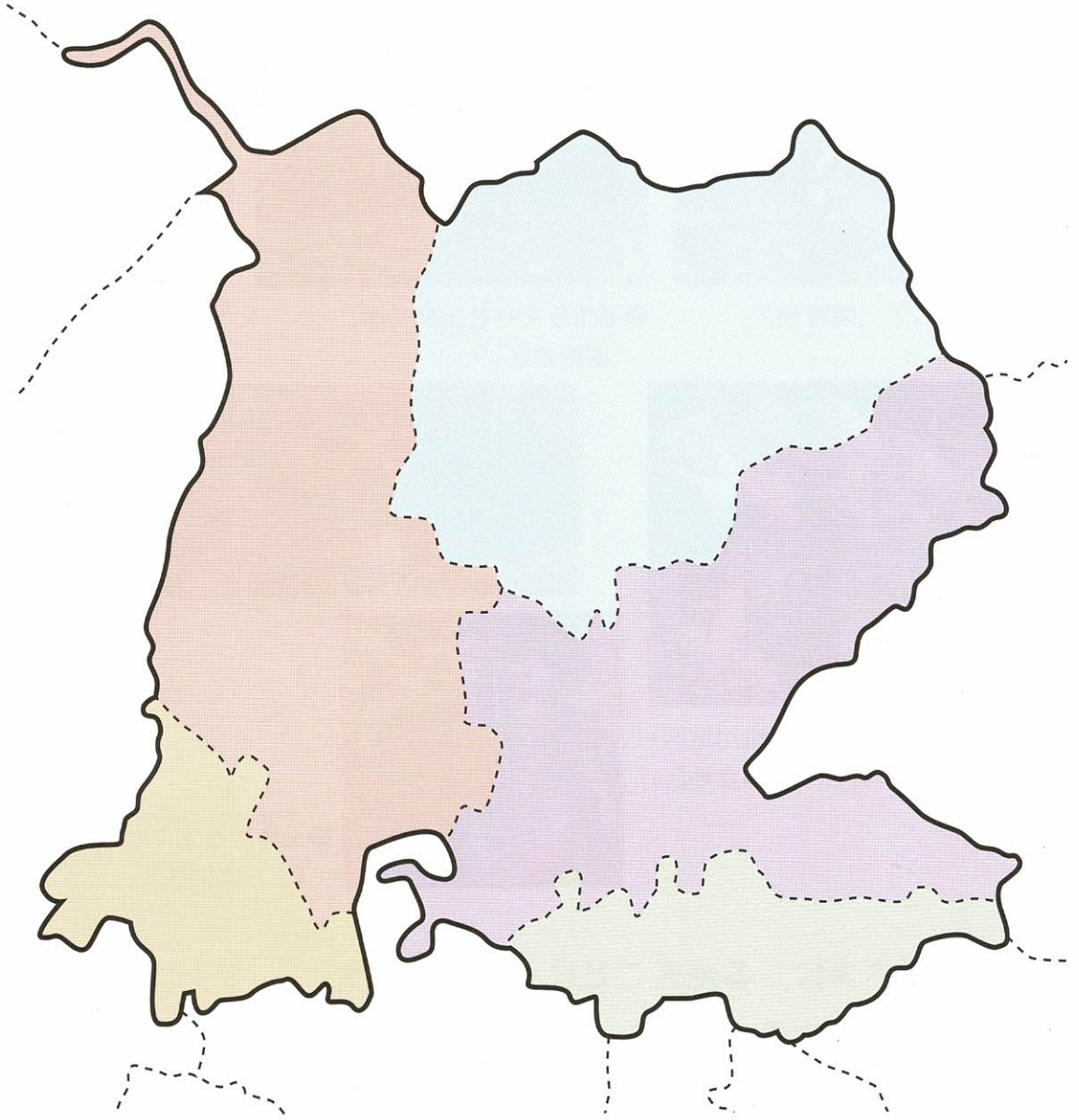
「高郷地区の塩坪化石そうはすばらしかったわ。」



「地区にある昔から伝わるものをもっといろいろ調べたいね。」

自分たちの調べてきたことをマップや新聞にまとめて発表しましょう。

れきしマップを作ろう



喜多方市の地図に調べてきた昔から伝わる古いものを書き入れましょう。

ぼくたちのきょう土、喜多方市に伝わるいろいろなねがいを地区の方たちが今でも大切にまもっているんだね。



喜多方市の市章



喜多方市の「喜」の字をイメージし、赤は歴史・文化の創造と交流・情熱を、緑は自然との調和と共生を表現しています。

平成18年7月4日制定



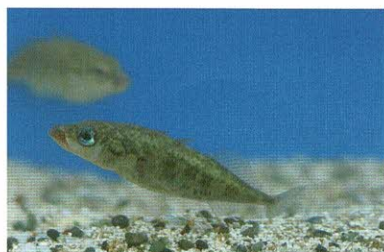
市の花「ヒメサユリ」



市の鳥「セキレイ」



市の木「飯豊スギ」



市の魚「イトヨ」



市の昆虫「ホタル」

平成18年7月4日制定